

令和6年度第1回
三重県職業能力開発審議会
議 事 録
(概 要)

令和7年1月21日(火)

1 開催日時

令和7年1月21日(火) 10時00分から12時00分まで

2 開催場所

三重県立津高等技術学校(三重県津市高茶屋小森町1176-2)

3 出席者

【学識経験者】

加藤 貴也 会長 三重大学 大学院地域イノベーション学研究科 准教授
林 浩一 委員 鳥羽商船高等専門学校 情報機械システム工学科 教授
和田 欣子 委員 元県立学校校長・元ユマニテク医療福祉大学校長

【事業主代表】

大西 史夫 委員 旭鍍金株式会社 取締役 総務部長
稲垣 法信 委員 三重県鐵構工業協同組合 理事長

【労働者代表】

廣瀬 純子 委員 日本労働組合総連合会三重県連合会 副事務局長
佐橋 洋一 委員 JAM東海 オルガナイザー
大西 孝明 委員 三重県建設労働組合 副執行委員長

【特別委員】

山口 大樹 特別委員 三重労働局職業安定部 部長

※欠席委員

学識経験者 杉浦 礼子 名古屋学院大学 経営学部 教授
事業主代表 前田 朝子 三重県中小企業レディース中央会 会長
特別委員 谷口 智一 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
三重支部 三重職業能力開発促進センター所長

【事務局】

県関係部局職員 8名

4 議題

- 【議題1】三重県の職業能力開発に係る事業の実施状況及び今後の予定について
【議題2】三重県立津高等技術学校の概要及び工業研究所との一体整備(建替え)
について

5 議事録

【議題1】三重県の職業能力開発に係る事業の実施状況及び今後の予定について

(事務局 三重県雇用経済部雇用対策課 から資料1に基づいて説明)

(津高等技術学校の現状の分析と今後の対策について)

【加藤委員】

・津高等技術学校の現状の分析と今後の対策について教えてほしい。

【事務局(津高等技術学校)】

- ・普通課程の入校率は、平成29年度は 85.7%だったが、その後減少し、令和3年度は 65.7%、令和4年度は 68.6%になった。そのため、平成29年ごろから普通課程のあり方を校内で検討してきた。
- ・その結果、令和6年度に普通課程の学科改編を実施した。
- ・入校率低下の原因は、ものづくりに対して子どもたちの関心が低下していることと、人口減少、また、人手不足により高校生の就職率がよいことであると考えている。

(津高等技術学校の周知について)

【佐橋委員】

- ・オープンキャンパスの実施を平日ではなく、休日に実施し、小さな頃から親子で参加できるような形にするとよいのではないか。
- ・学校の先生も参加しやすいようなオープンキャンパスを年に複数回実施するのもよいと思う。

【林委員】

- ・今の若い世代は、情報系で、例えば、プログラムやゲーム、アプリを作ることに興味があるのではと思う。その点から考えると、小さな頃から公開講座などで、機械の装置や電気回路などに触れられる機会があるとよいのではないか。

【事務局(障がい者雇用・就労促進課)】

- ・三重県技能士会と連携して、ショッピングセンター中で、ものづくり体験事業をしている。壁を塗ってもらったり、機械を組み立てたりといった体験事業が何種類かある。今年も 1,000 人ぐらいの子どもに来ていただいた。
- ・工業高校と企業と連携して、企業の中で実習をする機会を設けている。専門的な技術を企業の方から学んでもらい、ものづくりのより高度な知識を学んでもらう講座を開催している。

(ものづくりのイメージについて)

【廣瀬委員】

・津高等技術学校のパンフレットの写真も男性が多いが、ものづくりは男性、厳しいというイメージが定着しているように思う。ここを払拭していくことが大切である。

【和田委員】

・津高等技術学校のパンフレットを見ると、ものづくりイコール男性、ものづくりは厳しいものといった固定化したイメージが定着しているのではないかと思う。そのようなイメージをどう払拭するのかが大事になってくると思う。

【事務局(雇用経済部)】

・県の関係懇話会で、三重県のジェンダーギャップの根本的な原因として、アンコンシャスバイアスがあるのでは、という議論になった。男性はこうあるべきだ、女性はこうあるべきだ、ということが小さなときから刷り込まれている部分があるので、県を挙げて解消していく必要がある。

(津高等技術学校における女性の受講割合等について)

【廣瀬委員】

・津高等技術学校における女性の受講割合はどれくらいか。

【事務局(津高等技術学校)】

・学卒者を対象とした普通課程では、毎年40名、50名の入校者のうち、3名程度が女性になっている。
・離転職者向け訓練では、3割程度が女性の入校者である。

(不登校の学生の津高等技術学校の活用について)

【和田委員】

・不登校の学生の中には、発達特性があり、ものづくりに長けている子がいる。ただ、その学生が、いきなり企業で実習をするということは少しハードルがある。そこで、津高等技術学校で少し実習体験をさせてもらい、自分の特性が職業に結びついていくということを経験させてもらえるような取組があるといいのではと思う。

(STEAM 教育について)

【廣瀬委員】

・STEAM 教育について、どのようなことをされているのか。

【教育委員会事務局】

・県立高等学校17校で先端テクノロジーを活用した課題解決の学習というのをSTEAM プログラムとして実施している。4年ぐらい前から始めて、毎年、改善をしながら実施している。

- ・将来的に企業の中で、リーダー的な職業人として活躍できることを目指して取り組んでいる。

《津高等技術学校見学》

【議題2】三重県立津高等技術学校の概要及び工業研究所との一体整備(建替え)について

(事務局 津高等技術学校・雇用対策課 から資料2に基づいて説明)

(成果品の展示場所の確保について)

【廣瀬委員】

- ・学生の成果品がすばらしかった。新たに建て替える学校においても、成果品をいろいろな方が集まる場所に展示してもらいたい。小さなお子さんが見ることができるようにすることも大切。
- ・他にも、県立図書館や駅など、学生や小さなお子さんが自然に見ることができる場所に展示して、興味を持ってもらうようにするのはどうか。

(安全衛生に特化した設備について)

【佐橋委員】

- ・新しい学校に安全衛生に特化した設備を設置することはできないか。例えば、巻き込まれ事故の体験ができる施設など。
- ・中小企業では、安全衛生学習がどうしても座学になってしまっているので、学校でそのような体験ができれば、企業側の学校の利用も促進できる。また、企業も、安全衛生知識のある学生を採用したいので、学生への教育という意味でも非常に有意義である。

(ソフト面の整備について)

【加藤委員】

- ・ハード面の整備も大切だが、ソフト面も連携していくことで、相乗効果が出せると思う。ソフト面においても、ロングスパンでどのようなことを実施していくかということも大事だと考える。

(以上)